

「基督教主義」の再確認

土 居 真 俊

一

オスワルド・シュペングレーは「歴史は審く」(Die Weltgeschichte ist das Weltgericht) と言ひ、その高弟アーノルド・トインビーは「歴史の挑戦によく対応し得るもののみが生き残る」(challenge and response) と言つたが、わが同志社が過去九十年の間、はげしい試練に堪えながら今日の大をなすに至つたことは、先輩・校友・同窓諸兄姉の熱烈な愛校心を背景とする歴代経営責任者たちの賢明な指導と真摯な努力に負うところ多大であることは言うまでもないが、それにもまして銘記せられなければならないことは、それらの人々の精神的エネルギーの源泉となつてきた校祖新島襄先生の高邁なる立学の精神である。この精神が全同志社人の血管の中に脈々と流れてゐる限り、同志社は今後も永遠にわたつて歴史の試練に堪えて発展し続けるであらう。なぜなら、同志社の立学の精神は、

単なる実利主義ではなく、永遠の真理につながるものだからである。しかしながら、歴史が証明するように、いかなる運動も、宗教さえもが、その発足の当初においては、創立者の精神が比較的純粹に保持され、活発に作用するものであるが、年月を重ね組織が拡大するに伴つて、いつしか創立者の精神が忘れられ、あるいは歪曲されて、いたずらに形骸を曝らすということになりかねない。わが国の寺院仏教のごときはそのよき例である。わが同志社学園といえども、それが歴史的存在である以上、この歴史の風化作用から完全に自由であることはできないであらう。ただ、この歴史の風化作用による頹落から免れる道は、たえず歴史の源流を尋ね、そこから清冽な生命の泉を掬みとつて、自己を再創造していくことである。歴史の源流を尋ねるとは後向き姿勢になり、保守退嬰的となることを意味しない。同志社の特長は、保守的平和を樂しまんよりは、むしろダイナミックな前進を選ぶといふところにある。ただその場合、

時代の潮流に吞まれ、自己喪失に陥らないためには、たえず源流を尋ね、立学を精神を再確認しながら進出ということが大切である。

要は学園全体の体質の問題である。体質さえしっかりしているならば、外患は恐れるに足らない。健康な身体には外からのウイルスは侵入し得ない筈だからである。しかし、もし同志社に「基督教主義」というビタミンが欠乏し、体質が低下しているとするならば、内憂外患交々至るとき、あるいは歴史の試練に堪え得ないという事態に陥らないとも限らない。創立九十周年を明年に控え、全学園を挙げて一大反省の時に際会していると言えないであろうか。

二

しかし、そうは言っても、わたくしは決して空疎な精神主義を鼓吹しようとするものではない。精神は具体的な制度や施策となつて表現せられてこそ、その真価を発揮するので、具象化せられない精神主義は単なる空念仏に過ぎない。むしろ、われわれが問わなければならないことは、同志社の立学の精神は現在どこまで教学の面に、また経営の面に具体化されているか、また将来いかにしてそれを具体化していくことができるかということである。そして、それをなすに当って大切なことは誰かを被告の位置につけ、誰かの責任を追求するというような独善的な姿勢においてではなく、同志社という教育共同体の一員として互に責任を分かち合う者として、謙虚に、しかも卒直に話し合うということである。

そこでわたくしが第一に提唱したいことは、学園のあらゆるレベルにおいて、謀略や威圧や力関係を排して、誰もが自由に卒直に意

見を発表することのできる明るい話し合いの場を設定するということである。それにはいろいろな条件が必要であるが、まず第一に必要なことは共通の目標をもつということである。共通の目標とは全同志社学園の健全な発展とその教育理念の実現ということであつて、自分たちのイデオロギーを貫徹するためには同志社など潰れてもかまわないというのでは話にならない。第二には信頼感であるが、お互に信頼感をもつためには、政治的謀略や、力関係や、威圧などを排除し、お互の良識を信頼して、ひたすらに道理を追求するということが大切である。信頼感は話し合いを続けて行くうちに自ら増大するであろう。第三に大切なことはあらゆる形の独善主義の排除ということである。大学というところは「啓蒙主義者」の横行するところで、自分だけが、あるいは自分たちだけが目が開けていて、他の連中はみんな盲目だから啓蒙してやらなければ、という独善的な姿勢になり易いが、それでは話し合いにならない。話し合いというからには、互に話し合っているうちに自分もまた変化することがあり得る。自分もまた啓蒙されなければならないという謙虚さがなければならぬ。また世間には進歩的ということとレジスタンスということを同一視している人々があるが、それは間違ひである。もちろん、頑迷固陋な權威主義に対してはレジストしなければならぬが、現在の同志社にはそういうものは存在しない。真の進歩主義とは公共的価値を最も効率的に生産しようとする態度なので、自分の穴に閉じこもって何でも反対するというのは後進性以外の何ものでもない。第四に大切なことは話し合つて合意に達したことは必ず誠意をもって実行に移すということで、話し合いは不満

を発散させる場所で、実行はまた別というのでは信頼感はない。
第五に大切なことは話し合つて合意に達したことは、たゞ自分
多少の不満はあつても、誠心誠意協力するということ、これはデ
モクラシーのいろはであるが、狭量な日本人には仲々できない。

このような話し合いの場を作り上げて行くにはかなりの忍耐と修
練とを要するのであるが、学園共同体はこのような話し合いを通し
て形成されていくのであつて、この手続きを面倒がついていたの
は、いつまでたつてもごたごたは絶えない。

三

しかし、話し合いといつても、そこには自ら順序がなければなら
ない。今日のように学問が高度に専門化し、経営の規模もまた数十
億というように巨大化してくると、それを処理していくには高度の
専門知識を必要とするのであつて、素人の手にはおえない面があ
る。そこで専門家の起用と専門委員会の設置ということが不可避と
なってくる。ところが学校経営には特殊な難かしさがある。それは
教学の専門家必ずしも経営に精通しているとはいえず、経営の専門
家必ずしも教学の問題に理解があるとはいえない。そこで両方の専
門家が話し合つて意見を調製して行くことが必要である。それが理
事会の機能であろう。また専門家というものはとく視野が局限さ
れ易いものであるから、大所高所から全体を見渡すことのできる指
導者が必要であるが、それは総長や学長や理事長に期待される。

しかし、そのことは経営のことは専門家に委せておけ、素人は黙
つていろ——ということの意味するものではない。企画者は現場の

声を謙遜に聞き、それをできるだけ計画に反映させ、成案を得たな
らば、それをできるだけ末端にまで納得させるように努めなければ
ならない。わたくしが「あらゆるレベルにおける話し合い」と言つ
たのはそういう意味においてである。

経営の問題は教学の問題と深くからみ合つてゐるので、軽々に論
ずることはできないが、基本的な問題としては責任体制の確立、機
構の整備、連帯意識の強化などが挙げられる。同志社が総合学園で
である以上、各機関の責任体制を明確化すると同時に、各部門間の
連帯意識が強調されなければならない。同志社学園を一つの大樹に
たとえれば、各部門はその枝である。今日の大樹は一日にして成つ
たものではない。今日は小さく見える枝も、創立当初から同志社が
今日の大をなす基礎となつたものもある。また明日の飛躍と貢献と
が大いに期待されるものもある。ビタミンは少量であつても健康な
体質を維持するために必要である。伝えられる財政的危機について
は慎重に対処されなければならないが、いたずらに危機感におび
え、万事に消極的となり、時代の進進に立ちおくれるようなことが
あつてはならないと思う。

教学の面についていえば、学問的水準の向上と人間形成の二つの
面から考えられなければならない。それには教育環境の整備、設備
の拡充も重要であるが、何といつても教師の資質が重要な比重を占
める。少くとも大学においては、教師は高い学問的業績と同時に、
教育者としての人格と熱意とをもつことを期待されるが、現実にお
いては、よき学者必ずしもよき教育者ならず、よき教育者必ずしも
よき学者ならずという矛盾がなくはない。しかし、教師といえども

人間である以上、完全を期待することは無理であろう。互に自らを省みて他をあげつらわない謙遜が必要である。ただ望みたいことは入社の際に同志社の教育理念をよく理解し、それに協力てくしれる人物を選ぶこと、学問の水準を高めるためには、現在の年功序列制に業績尊重の精神を加味し、研究意欲を旺盛にすることである。

四

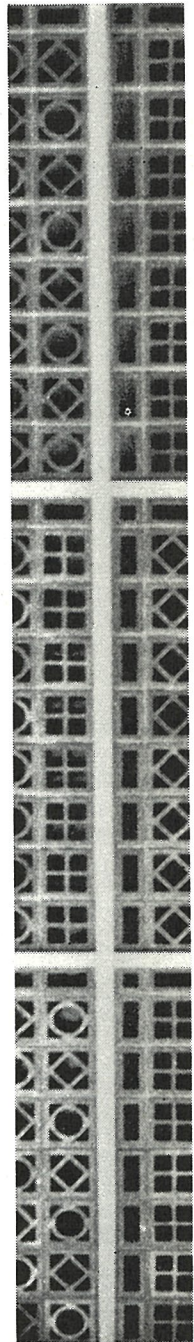
基督教々育プロパーについて語る紙数が少くなったが、再び歴史家トインビーの声に聞こう。かれによれば、文明は栄枯盛衰の循環を繰返すものであるが、宗教はそれを超越し、文明の崩壊を阻止し、新しい文明を創造する能力を有するものである。わが同志社が、しばしば危機に遭遇しながら歴史の試練に堪えて今日の大をなすに至ったのは、基督教の創造力によるものとわたくしは信じている。それにつけてもわれわれが心しなければならぬことは、同志社の発展にとって必要なものは文化財としての形骸化された基督教ではなく、再生力をもった活ける生命力としての基督教であるということである。それではその活ける生命力はどこからくるか。それは冷たい客観的な宗教学的な知識からではなく、究極的に意味ある実在との実存的な関わり合いとしての信仰からくるのである。だから、(甚だ言いにくいことではあるが)同志社を愛し、同志社に責任をもつ人々はどうかそういう意味での基督教的生命を自分のものとしていただきたい。これはわたくしの切なる祈りである。

さらにトインビーは続けて言う、文明の栄枯盛衰の車輪の廻転は決して無意味な繰返しではなく、宗教という車輛を目標へと押しや

るのであると。手つとり早くいえば、宗教は歴史の試練に会えば合うほど、自己を更新し発展していくのである。この点、同志社の基督教はどうであろうか。最近数年間わが同志社は様々な試練に会いながら教会的には急速に巨大化してきたのであるが、同志社の基督教々育は、内容的にも形式的にも、それに見合う充実発展を遂げてきたであろうか。ここに大きな盲点があるのではあるまいか。そこには同志社の伝統的な精神主義の影響があるのかも知れない。宗教はもともと精神的なものであって、それが制度や組織にたよるようになれば形式化し墮落するという考え方である。それは確かに一面の真理ではあるが、真理のすべてでない。そもそも裸の精神というようなものがあり得るであろうか。精神があればそれは必ず具体的な制度施策となつて自己を表現する筈である。現実化せざる精神は蒸発してしまうのである。

理窟をいうことはやめよう。わたくしは誰をせめているのでもない。ただわたくしはこの荒れすきだ時代に生きている学生諸君に、狭い校庭に渦巻いている学生諸君に、魂の憩いの場を与えたいのである。霊の糧を与えたいのである。幸いに新神学館のチャペルはそれにふさわしい雰囲気をもっている。これをもっと活用したい。聞けば新町校舎にある商高はオルターもない教室で礼拝しているという。あそこは大学と兼用のチャペルを建て魂の憩いの場とすることはどうであろうか。校友の寄附でも仰げれば幸いである。幸いにして理事会当局は創立九十周年記念事業の一つとして精神教育基金を設定しようとしておられる。これが有効に活用できる日を期待して筆を置く。

(神学部教授・宗教部長)



アンケート

同志社への積極的な提言

(順不同)

同志社の甘さを除け

熊谷 開作

△大阪大学教授▽

校友と会い、学園を訪ねる。やはり同志社らしい温かさを感じる。しかし、同時に同志社の甘さも感ずる。隣人愛とは決して甘いものではないはず、もっと厳しいものであるは

ずだ。同志社の甘さはどこからくるか、それに対する対策は——わたくしの考えの一端。

奨学制度を拡充すること——現在の学生・生徒の大半はかなり豊かな家庭環境にめぐまれているのではないか。そのことから、学習はサボってもどうにか卒業して家業でも継げばという甘い考えが出てくるのではないか。貧しくても能力のある学生を集めて多彩な将来を期するために、奨学制度を拡大強化することは焦眉の課題である。

共学を原則とすること——同志社の甘さは女子部のなかでかなり醸成されているのでは

ないか。小学校三年生くらいから家庭教師にみてもらって中学へ入り、あとは最小限の努力で女子大まで、女子だけの甘いムード——それは豊かな同志社にとって有害無益であると思う。

中学校から大学まで、学問の厳しさと真理の尊さが忘れられたとき、そこには学校の形骸だけがあって、もはや学校がないことを銘記すべきである。

宗教的雰囲気の中での教育

藤井 恒男

△朝日新聞社ラジオ・テレビ室長▽

私が同志社生活六年間（中学三年、旧制予科三年）で学んだものは、無形有形の、数え切れない教えですが、同志社の森を去って三十有余年、今でも座右の銘の信条は『良心を手腕に運用せよ』という教えです。

学校教育の専門家でも、研究家でもない私が、教学、経営、マスプロ教育対策がどうあるべきか、の建言はせんえつだと考えます。

ただ私は平素から「教育」と「学問」を区別して考えている一人です。この区別がないとややもすれば小学校教諭と大学教授の評価に差をつけかねません。勿論、大学は小学校より学問的に上級でしょう。しかし「教育」という点では同じです。学者はいるが、教育者がいないでは困ります。教育的にはむしろ初

等教育の方が難しいかも知れません。

同志社に欠けてならぬものは、宗教的雰囲気の中に育くまれる教育環境と教育の尊さです。これが建学の精神だと信じます。

学界に独自の貢献を

田淵 実

△東洋紡経済研究所長▽

同志社もマンモス学園化の一除を辿っているようだが、これは時代の要請にこたえるため、また私学経営上の必要から、そうなる運命にあるのだろう。しかし、そのために同志社の特色を失うことになると思えば残念だと思う。キリスト教主義に基づく教育を行なうことを教育の基調としている日本では数少ない学園の代表として、急激に変革する今日の社会で如何に生きるべきかについて指針を与える一つの中心となるくらいの意気込みをみせて貰いたい。学問の面では、総合大学だ

からといって、すべての分野のレベルを一挙に高めることは不可能に近い。一、二の部門でもよい、学界に独自の貢献ができる大学になるよう努力することが、今日の同志社にとって肝要だと思う。せめて英語教育だけでも画期的なものを打ち出して貰いたい。中、高校、大学を通じて、同志社の英語教育が日本の非効率な外国語教育に転機を与えることができれば、それだけでも同志社の存在価値は大いに高められるだろう。

講義の中で新島精神を高揚

望月 満子

△同志社女子大教授▽

同志社の中で職を奉じているものが、同志社へ積極的な提言をするということはむづかしいことである。われわれは種々の問題にデイレンマを持つ。女子大学においても、入学式をすませると新人生、新任の先生は校祖の

墓参をする。

新島精神を心にしつかり入れた学生を世に送り出すことは、立派なこと、間違いのないことではあるが、実際に、学生はどれだけ校祖を尊敬し、どれほど校祖の精神に影響されているだろうか。校祖に対して学生に関心を持たせるやり方がマンネリズムに陥っていると思はる。

新島先生の生きておられた時代の学生と、今の学生との生活様式、思想、考え方、環境等があまりにも違っている現代、新島先生の精神を高揚するならば、それは旧態然としたやり方であってはならない筈である。

形式的なものではなく、一時間ごとの講義の中にこうした精神のこめられるような教育が行なわれればよいと思う。

心と心のふれあい

小川 秀 一

△大阪四貫島教会教師▽

母校同志社を思うとき、第一に感謝の念がおこってくる。私は貧しい神学生であったが、学費の相談、身上の心配事、何から何まで教授の先生が世話して下さいました。あるとき職員室に入ろうと扉の所になつと、中から「小川君」という声がきこえるので、ふと立ぎますると、私の学費のため協議して下さいました。私は涙のにじむのを覚えた。こういう温かい先生との心の交りに支えられて卒業することができた。良心を手腕に運用する人物は、先生との心の交りから生まれると信じる。この時代にあつていろいろ経営上問題はあると思うが、同志社に期待することは、一にも、二にも、三にも、心と心とのつながりによる教育である。あらゆる近代的制度や技術を充分とり入れ、無駄を省き、設備も教授陣も整備し、心と心とが交る場所と時間を持つ教育をしてほしい。損得をはなれ、学生一人一人の人格を尊重し、一人一人の心にふれてゆくためには、どうしてもキリスト教信仰に立つ理事者と職員組織でなければならぬ。生徒・学生は第二として、まづこの理事者と職員組織がキリスト信仰に貫かれて、この世に対して確固として立つてほしい。

冗 費

宮 井 敏

△商学部助教授▽

すべての事柄について主観的抜すいによつて評価しないこと。例えば全体のバランスの中で論じられるべき問題をそれだけ単独にとり出して必要であるとかないとか言うことである。ある機構にせよ、物品にせよ、あれば便利だとか、ぜひとも、と言っても、どれがどれよりもより必要だという優先順位が確立していないために、力関係から分取主義や取引が行なわれる結果となる。全体としての基本路線が確立していればこのようなことも起り得ないのだが、誰がみても全体的には必要のなさそうな部署、機構、物品が多すぎるようである。一例がこの同志社時報である。あればあつたで存在価値はあり得ようが、なくとも痛痒を感じない代物ではなからうか。ラインとスタッフの関係がパーキンソンの法

すまず複雑化してくる最近の傾向をみて、思うことしきりである。

賃銀・労働条件の

改善が基本

小倉 襄 二

△文学部教授▽

常識だといえますが教職員の教育、研究、生活が本当に確保されるような賃金、労働条件の改善が基本であると思います。キリスト教主義による教学体制とも矛盾しません。矛盾とか背反すると考える人は学内では、少なくりましたが、同志社経営の根本方針として教職員のこの要求が確認されているとはいえません。

とくに学外の関係者にこの「常識」が十分に理解されることを望みます。研究、教育上の問題としては、新島先生建学の精神を現代の状況において、どのように具現するかという鮮烈なイメージと問題意識が不足しているとい

思います。私の専門からいえば、山室重平、岡幸助、牧野虎次といった日本社会事業史の軸心になった先覚の人間像を現実の領域においてとらえかえてみたいと考えています。平民主義とか反骨、抵抗の姿勢などの意味、これらの論点に、今の同志社教育に欠けている大きな遺産がしめされていることだけははっきりしています。現代に生かすべきものと思います。

行きとどいた教育を

光田 節子

△同窓会役員・主婦▽

同志社といえば、世間ではお金のかかる学校ということになっているようです。実際によその私立学校と比べてみて、普通なのかそれともやはり高いのか私はよく存じません。しかし、うんと高くてもいいのではないのでしょうか。はじめからお金のかかることを承知

の上で入学を志願する学生だけを対象にすれば、その数もずっと制限されましようし授業料で団交や座り込み等はなくありません。

今はあまり学生数が多くなりすぎています。多すぎるために行き届かず、いろいろな面に不足と不満が出てきましたし、悪い新聞種になるような学生も出てきました。先生は学生を知らず、学生も先生を知らないままに積ん教育どころでなく、一応世間体の資格だけをとって押し出されています。

そこでせっかく高い授業料をとっているのですから、その代りに学校の方では立派な先生で行き届いた教育をするために最上の方法を親切に同時に厳しくして欲しいものです。そうすれば、いくらお金を出して、のら息子では入学できませんし、また、入学しても卒業はもうできませんし、途中で直きに落伍してしまいうでしょう。

社会人になった卒業生は母校の誇りとなるような人ばかりで、その卒業生も、また母校へ送ることを願うし、世間での同志社の声価はいよいよ広がり、同志社を見直すようなそんな学校になって欲しいと思います。

一貫教育の強化

岩 井 文 男

△新潟学園長▽

同志社大学がキリスト教教育を深化徹底するためには、現在以上に一貫教育を強化すべきだ。生理的にも心理的にも、大学に入ってから宗教教育はおそ過ぎる。まず、大学入学者の%を同志社高校および全国キリスト教主義高校から、残る1/4を全国普通学校から採用したらよい。ただし現在の体制では大学学生の質的低下を免れないから、同志社内では中高の拡大強化が必至となる。

中高では徹底的に個性教育に力を入れる。とくに宗教教育面には力を入れ、研究機関等を設けて指導者の力量を充分に発輝させる。今日一貫教育への不満は質的に充分な学生が得られないという点であろう。クラス内容数を減じ、学校数を増すなり、現在の1校当りの収容数を増すと共に個性的教育のできる細

分組織とする。一挙に実現することは勿論でない相談だが、十年なり、二十年計画で行なえば実現不可能ではない。大学の宗教面を漫然神学部に期待したり、現実の小規模な宗教部にのみ期待するのは全然誤りではないが効力は少ない。

人材を学の内外に求めよう

原 田 敬 一

△千葉大学助教授▽

長らく母校から離れているためにあるいは見当違いな発言があるかも知れぬが、私は次の二点を特に提言したい。第一に、マス・プロの弊害をいたずらに嘆くことなく、それに即した思い切った教育―たとえば視聴覚教育―を行なうための委員会を設立して充分な研究をすること。それにともなうて、小クラス制度・アドヴァイザー制度・ゼミ制度等を確立して、教師と学生との人格的連りを密にする。この両者がうまく行なわれるためには教

師の待遇の改善、負担の軽減が根本的に問題にされねばならぬであろう。第二に、そのために人材を広く学の内外に求めること。学問人格共にすぐれた人物を得るためには、同志社出身者偏重を避けるべきである。これを誤ると往々にして学生の学問的、人格的指導等をなし得ない無能教師の沈黙の場を作り、派閥の場を作ることになる。同志社教育の理想に心から共鳴する人が学外に多くいる。こういう人々の力を借りて、井の中の蛙ならぬ、天下にゆるぎない同志社を造ることが当局の責任ではなからうか。

静けさをとりもどせ

河 野 仁 昭

△大学職員▽

大学の門が、戦後あらゆる階層にむかつておしひらかれたのは、好ましい改革であった。しかし、戦後派のぼくにはしかとはわからな

の府としての静けさと厳肅さをうしなったのである。同志社もむろんその例外ではない。

ことは、単に表面的な権威や尊厳の問題ではなく、研究能率や教育効果という、大学の本質的なものにかかわりのあるゆゆしい問題であるはずだ。学生は劇場へ出入りする気楽さで教場へ出入りし、さかり場となんらえらぶところがないような環境のなかで、研究室はうだっている。

一挙には解決しようのないいくつかの困難な原因と条件があるであろう。それにしても、もうすこし「静けさをとりもど」し維持するための配慮があつてよい。関係者がその氣になれば、実現可能なことは沢山ある。あまりにも学園が騒々しすぎるではないか。

社会に奉仕する

人物の育成

今井新太郎

△東京家庭学校長▽

明治、大正を通して、日本の社会事業に貢

同志社への積極的な提言

献した家庭学校の創立者留岡幸助翁の後継者として、今日、牧野虎次先生二代目校長の跡をついでいる者として、同志社は、日本の、否な世界の社会事業界に、不朽の足跡を残している。少なくとも日本の社会事業、ことに児童福祉事業においては指導的な役割を演じている留岡幸助先生の人格と信仰とは、同志社教育の産物である。新島精神の実のりであり、教育の成果である。山室軍平中将も然りである。児童および民衆救済のために残された足跡不朽の光を放つものである。同志社教育の価値は不朽である。

人生は教育であり、教育は奉仕である。とあくまでも、大学教育は、真理を追求し、良心を手腕に運用し、愛情と真実とをもって、社会に人類に奉仕する人物の育成にある。人物の育成さるる所、経営自ら道は開かれる。優秀なる、忍耐深い、腹のある、涙の人物を造ることが先決問題だ。同志社の特色は基督教主義で、新島精神を体得し、人類に奉仕する世界的な光を放つ人物の育成にある。個性を発揮せよ。深く自己を掘れ。宝は各人物の中に無尽蔵である。教育の希望は数々ある。

反骨精神を養え

荒井康裕

△日刊工業新聞記者▽

同志社は京都にあつて、政治、経済、文化全ての中心勢力たる東京に対し、私学の精神を最も有効に發揮できる、非常に恵まれた地位を持っていると思います。キャンパス移動の話も聞きますが、かつての日本の首都から現在の世界の文化都市たる京都の存在意義を薄っぺらに考えず、中央への反骨精神の先鋒となつて欲しく思います。

それには教育者たる同志社の性格なり、同じ社会が要求する青年子女の供給にしても、どのように供給をするのかなど、大学の場合なら、入学式の時、学長がはつきりその旨を学生に向つて伝えたらどうでしょうか。「現段階ではマスプロは仕方ないが、その代り同志社にはこれこれ有る」と。

私は純粋なハマツ子として高校まで横浜の学校を出てから同志社大学に学んだ者として同志社が当然持つべき中央に対する批判精神の欠除を指摘するものです。

学生数を縮少せよ

山川 幸世

△舞台芸術学院教授▽

朝日ジャーナルの「大学の庭々」を毎号興味深く読んでいる一人ですが、「いい大学」と思われたのは、成蹊大学、上智大学、お茶の水女子大学ぐらいて、総合大学でありながらマスプロ的な大学にはならない、せいぜい学生総数三千内外の学校でした。戦後、東大はじめ、東京の早稲田、ケイオー、関西の同志社その外、皆、色々な原因はあったでしょうが、あまりに大きくふくれあがりすぎたのではないでしょうか。これでは本当に、教育ができるはずがないと思います。私が、同志社にいた時、英文科はたったの十六名でした

(昭和三年卒)。そして私はその時全員三十名ぐらいのラグビー部のマネージャーをやっている、その部長が今の総長の住谷先生でした。住谷先生のもとで、同志社が往時の、いい大学にもどる道は、経営的にマイナスにならない方法をとりながら(これは仲々大変なことですが)、人間的に大幅な縮少をする、以外に方法はないと思います。

住谷総長に大きな期待を持ちます。

キリスト教教育の徹底

藤代 泰三

(神学部教授)

同志社教育の基本はキリスト教主義教育による人格の養成と、学問技術を身につけることにある。私はとくにキリスト教主義教育を徹底させよと主張したい。たんにキリスト教的な人生観や世界観を身につけて、ものの考え方をキリスト教的にするばかりでなく、キリスト教信仰そのものを学生、生徒が一人でも

多く身につけていただくために学校当局は大いに配慮すべきである。

したがってクリスチャン教職員は、まず教会への出席を真剣に考えなければならない。たえず謙虚に説教に耳を傾ける者でなければならない。

クリスチャンであるすぐれた教職員をいずれの学校でも採用するよう努力すべきである。

学生、生徒には教会に出席することを奨励すべきである。学内にある同志社教会や、その他出席するのに便利な教会に出席することをすすめるべきである。

「世の光」、また「地の塩」としての使命を果たす青少年が生れるために！

校友の総力による

財政難の打開

今村 義人

△校友会評議員・樹徳会理事▽

創立九十年の長い歴史と八万の校友を擁す

るマンモス同志社に、いまなお学生の不幸事件が繰返され、教職員の待遇改善が叫び続けられていることは、それぞれ理由はあるにせよ悲しいことである。学校当局はこれに対し速かに適切な措置を講ぜねば新島先生の立学の精神はいつまでもたつても育たぬと思う。温容と忍耐にも自ら限度があることを当局は銘記すべきであると思うが如何。切に反省を求める次第である。

また、教授は學問を教える他に学生諸君がもて余す若い力を善導する大きな責任のあることを痛感し、人物養成の面にもベストをつくしていただきたい。財源拡充に万全を期することも今日の同志社の急務であり、先頃、上野学長が私大待遇改善を文部省に要望したことも結構であるが、これと相俟つて校友八万の総力を活用することも軽視してはならぬと思う。いたずらに他力本願に依存する前に眠れる宝庫である校友に訴え、自力更生を考えることも母校発展の近途と考える。そのためには校友会や下部団体の啓蒙が必要であり、しかる後においてこそ名実ともに関西私学の雄「同志社」は生まれると確信する。

同志社への積極的な提言

学園に清風を

下 田 稔

△朝日新聞客員▽

同志社大学学園は、都会地と隔絶した広大な山野の敷地に移転する。教育は、小学校から大学にいたるまでの一貫したものが望ましい。そして、少くとも高校以上は全寮制度をしいてほしい。

次に同志社の運営にあたる各種機関の組織運営の再検討をおこない、学園伸展に対する熱と意気に燃える清新な人々をこれにあてたい。学園の寄生虫的人物は一掃したい。

また同志社財団の強化をはかり、教学振興に遺憾なからしめ、教職員の待遇も官公立をふくめた他学園の追従を許さぬものとし、かつ定年退職後の生活も保証する。その反面、教職員、とくに教授団には一流の人々を求める。必ずしも同志社出身である必要はない。

他面、外国をふくめ、国内大学とも交換教授、留学などもさかにおこない、学内の新風を期したい。蛇足を加えるなら、学生指導にあたる教授たちは政学の別をわきまえ、人格識見ともに学生の尊敬を集めうる進歩的な人であつてほしい。

緊迫した呼応の欠除

釜 田 泰 介

△法四・アームストロング館客員▽

「知識あり、品行あり、自ら立ち、自ら治むるの人民」(同志社大学)の養成。これはひとえに同志社教育の目標のみならず教育普遍の目的として唱えられるようになった現在、私学同志社に学ぶ者は再度この言を自らに問うてみる必要がある。この一文の一言一句の真意を問うとき、われわれは慄然とするものを感じざるをえない。これは正にわれわれ同志社に学ぶ者へ一つの決断を迫る言葉である。

「汝、知識あり、品行あり、自ら立ち、自治むる野人の道を歩まんとする覚悟あらば我応えん」という学園の府よりの呼掛けである。

現在の同志社が依然としてこの厳しい道を青年に説かんとするのなら、今の学園にはこの緊迫した呼応が余りにも欠けているのではなからうか。学者であると同時に教育者である師からのこの決断を迫る声と、これに応えてこの決断へ飛躍せんとする学生の呼応が学内に響かずして同志社教育の独自性をどこに見い出しえようか。

積極的人間開発を

山 本 孝 造

△ソニー商事広報部制作課長△

①入試地獄は人生・社会面観点から改善を要し、同志社入試と入学後の形式的試験改善または廃止。

②無試験大量入学による学校経営上の利を教育者と施設の質量待遇向上に。

③入学後の学生個々が人間として個性才能

と社会での最適職能発見の自己開発ができるよう、温かい指導教育Ⅱ芽を培う陣容の充実

④そのため実質的な試験で半期ごとに厳しく適性のふるいをかける。

⑤落伍・不適者は学内での転科または他学へ再入試させ真に適す才能領域へ振向けるが本人と社会とに益す。シカゴIITデザイン学校の実例で卒業生は入学時の $\frac{1}{10}$ と聞く

⑥自己適性開発と常識自覚のため教養課程の選択幅を拡げ、専攻課程は密度を高める。

⑦社会進化に伴う応用実用学科を同志社に適す範囲で拡充。原子力学科は他学に任せ他に類なき科目を。

⑧社会的良識実際の充満と社会に役立つ自己の得意技能力を売込む積極的人間の育成を偶像観念にならぬ新島スピリットに期待する

「みんな違う」同志社人

宮 本 栄 三

△近江兄弟社学園中・高等学校校長△

ある同僚が私にこういった。「同志社は実に不思議な学校だ。来る人ことごとくみんな

違う。」人は顔も違えば性格も違う。同志社人が十人十色、多士済済であつて悪からうはずがない。だが彼の言葉はそのような意味ではない。一つの学園に学んだ者には何か共通の要素があるであらうというごくありふれた期待が裏切られた失望の告白なのである。

大学は真理探究の場であるよりも前に人間形成の場でなければならない。後者は前者に先行する上位概念である。大学が人間形成に失敗すれば、いかに真理探究を云々してもその響は空しい。ワン・パースである筈の同志社人が「みんな違う」というこの言葉は同志社教育の現状に対する一つの警鐘として謙虚に聞くべきである。

昨年十二月の学内暴力事件も同志社教育の悲劇である。当事者の学生に対し、厳罰が無処罰かを云々する前に、真の新島精神に帰らなければ、いづれをとろうとも人間形成に今後とも失敗しつづけるであらう。

提案。事件の当事者諸君には同志社が学資を供して一年位余分に勉強さすこと。これは処罰でもなければ無責任な放任でもない。しかし肝心なことは学資の提供・留年という形式ではなく、同志社が真にワン・パースの新島精神に立っているかどうかである。みんな違つても、一つ魂の同志社に帰らう。